

— 作業環境測定業務のご案内 —



有害な業務を行う **10 種類の作業場** は、作業環境測定を行い、その結果を **記録** することが義務づけられています（労働安全衛生法第 65 条第 1 項）。



○作業環境測定とは

作業環境には働く人々の健康に悪影響を与えるガス・蒸気・粉じん等の有害物質や騒音・放射線・高熱等の有害エネルギーが存在します。

作業環境測定とは、有害因子を作業場から除去、もしくは一定のレベル以下に管理するために、作業場の空気環境やその他の環境について、デザイン、サンプリング、分析及びその評価を実施し、快適な作業環境の実現を目指すものです。



作業環境測定を行うべき作業場の種類

作業場の種類	測定の種類	測定頻度	作業環境測定士による測定が必要な作業
粉じん を著しく発散する屋内作業場	空気中の濃度及び粉じん中の遊離けい酸含有率	6 月以内ごとに 1 回	●
暑熱、寒冷 または 多湿 の屋内作業場	気温、湿度、ふく射熱	半月以内ごとに 1 回	
著しい 騒音 を発する屋内作業場	等価騒音レベル	6 月以内ごとに 1 回	
坑内 の作業場	炭酸ガスの濃度、気温および通気量	1 月以内ごとに 1 回（炭酸ガス） 半月以内ごとに 1 回（気温、通気量）	
中央管理方式の空調 設備下の事務所	一酸化炭素および二酸化炭素の含有率、室温および外気温、相対湿度	2 月以内ごとに 1 回	
放射線業務 を行う作業場	外部放射線による線量当量率および空気中の放射性物質の濃度	1 月以内ごとに 1 回	●
特定化学物質 を製造または取り扱う作業場	第 1 類物質、第 2 類物質および石棉の空気中における濃度	6 月以内ごとに 1 回	●
一定の 鉛業務 を行う屋内作業場	空気中の鉛の濃度	1 年以内ごとに 1 回	●
酸素欠乏危険場所 の該当作業場	空気中の酸素および硫化水素の濃度	作業開始前等ごと	
有機溶剤 を製造または取り扱う作業場	当該有機溶剤の濃度	6 月以内ごとに 1 回	●

業務の流れ

①作業場の見取り図の作成 (現場確認)

作業環境測定士が現場に伺い、有害物質を使用する作業場の見取り図を作成。

現場確認
から1週
間程度

②測定デザインの設定

測定対象物、測定場所など、測定の具体的な計画(デザイン)を決定。

③A測定、B測定の実施

A測定：作業場所の平均的な状況を測定。
B測定：最も高濃度と想定される状況を測定。

④前処理・分析の実施

作業環境測定基準に従った測定を実施。

2~3週間
程度

⑤作業環境評価基準による評価の実施

A測定は分析結果から算出した評価値と管理濃度を、B測定は測定値と管理濃度を、それぞれ比較し、評価を実施。

⑥管理区分(評価)の決定、 報告書の作成

第1管理区分：作業環境濃度が適切。
第2管理区分：作業環境濃度に点検、改善の余地あり。
第3管理区分：作業環境濃度が不適切、点検、改善を実施する必要がある。

一問い合わせ先

当事業団は、(放射線を除く)作業環境測定が可能な登録機関です(三重県第24-7号)。測定に係るご依頼・ご相談をお待ちしております。

一般財団法人 三重県環境保全事業団
調査部 第一分析課 瀬古・番土
TEL:059-245-7508 FAX:059-245-7516
HP: <http://www.mec.or.jp/>

